

Campus News

静岡理科大学 広報誌 [キャンパスニュース]

2016

7

Vol.48

特集

- 平成29年4月 理工学部で静岡県初の「建築学科」開設
- 大学の研究力で地域に貢献
- 総合情報学部の3名が第5回サイエンス・インカレのファイナリストに!



お兄ちゃんこれってどういうこと??

3月24日(木)、本学にてお理工塾『春休みたいけん研究室』を行い、小学3～5年生の子供たち約60名とその保護者に参加いただきました。



静岡理科大学

輝く未来へ
はばたく力を





学長挨拶

建築学科の始動と情報学部への改編を通して、
これからの静岡理工科大学を考える

学長 野口 博

本学では、平成29年4月の建築学科の開設に向けて、建築学科棟（仮称）の建設工事が3月からスタートしています。建物のデザインコンセプトは、イベント空間やPC・CAD室などを活用し、全分野の学生や市民の方々を、各種の集会や日々の教育研究活動に招き入れる「大きな軒下空間」です。建物は鉄骨造4階建てで、外側への末広がり型で、1階から上階に行くに従い床面積が大きく、4階までの吹き抜けなど空間の使い方に特徴があります。

また、この新校舎は、情報学部への再編に伴い、高度情報社会にふさわしい地域産業の創出を担う創造的人材の育成を目指し、プログラムづくりから、ICT（情報コミュニケーション技術）を活用した「ことづくり」への拠点として活用することも計画しております。

今後、静岡県初の建築学科と情報学部への改編を端緒に、文理両道を基本とする静岡県唯一の私立理工系総合大学を目指します。そして、地域社会で活躍するための専門力と主体性を持って生き抜く力としての人間力をバランス良く身に付けた技術者を育成します。

地方創生が叫ばれる中で、新しい地方の豊かさを創造するためには、人と人との繋がりの中で、自分ができることを探していくことが大切です。社会に役立つプロダクトへの企画や発想を大事にする「ことづくり」から、「高品質のものづくり」へと、芸術やデザインも介して、地域に根ざしたローカル化や分権化、コンパクトシティづくり、地域に移り住む若人を増やすのに必要な、安心して働き、子育ても出来る地域の環境作りに貢献するような人材の育成が求められています。

本学では、この新校舎を拠点として、まちづくりへの参画、施策提案、防災・減災など、地域課題解決型「地域学」講座の充実などを通して、地域社会に貢献して参ります。

新校舎「建築学科棟（仮称）」施工工事現場
（平成29年4月）



遠州灘

4月から遠州に住み始めて、この地方で育つ子供たちは幸せだと感じています。週末に30分も車で移動すれば海・砂丘・公園で自然に触れることができますし、食べ物おいしいものも多く、気候が温暖で長い時間、陽が当たります。多数の企業があるので学生から社会に出る際に、仕事も見つけられます。新幹線で名古屋や東京に出るのも簡単ですし、高速道路も充実しています。これだけの条件が整った環境は他の地方では見つけるのが難しいと思います。就職先が東京や名古屋などの県外になった学生も、将来はまた遠州に戻って来れると思います。いつか戻ってくる場所がこれだけ整ってれば、たとえ別地方や海外に巣立っても安心して活躍できるのでは。(N)

平成29年4月

理工学部に静岡県初の「建築学科」開設

建築学科設置の背景・意義

静岡県初の「建築学科」が誕生します。静岡県は、地震、津波に対する防災・減災の意識が高く、建築分野の人材ニーズが大きいにもかかわらず、「建築」を統合的に学ぶ学科が県内にはありませんでした。

本学の建築学科設置により、大学教員と学生による教育、研究及び地域連携の活動を行い、さらに建築を学んだ人材を輩出することで、地域における建築の文化を高めていく大きな効果が期待されます。また、地域の建築に関連する産業にとっても、人材確保の観点から、大きな期待が寄せられています。

建築学科で育成する人材

建築学科で育成する人材像は、「知識・技術」、「思考・判断」、「関心・態度」及び「コミュニケーション」の4つの項目ごとに、次の通りです。

- 計画・意匠、構造、環境の個々の分野の広範な基礎知識と高度な専門知識を有し、個々の分野を統合する技術を持つ。とりわけ地域固有の気候風土・文化を活かした都市・建築空間の創造に寄与する。**(知識・技術)**
- 建築・都市・地域のスケールを横断し、創造的な思考と判断ができる。**(思考・判断)**
- 他領域との関連が高く、扱う領域も広い建築学の特徴から、諸領域への関心を高く持ち、領域を乗り越える積極的の態度を持つ。**(関心・態度)**
- 自らの提案を他者・社会にプレゼンテーションし、発注者・利用者・技術者などプロジェクト関係者との意思疎通を図るためのコミュニケーション能力を有する。**(コミュニケーション)**

建築学科の教育の特徴

① 扱う領域を統合的に学修

建築学が対象とするスケールは、家具や照明、個々の建築から、都市・地域までが範囲であり、また、扱う領域も、建築計画・意匠、建築構造・生産、建築環境・設備を中心に、機械、電気、エネルギー、地理、歴史、社会学、心理学など多岐にわたります。新設する建築学科では、これらの知識・技術を統合的に学修し、新たな建築を創造するための教育を行います。また、1学年の人数が50人と、大学の学科としては少人数であることから、建築設計の課題への取り組みなどで、充実した教育を行います。

② 資格取得

指定した科目を履修することで、一級建築士(要実務経験2年)、二級建築士などの受験資格を得ることができます。その他、建築施工管理技士、宅地建物取引主任者、インテリアコーディネーターなどの資格取得もできます。

③ 特徴的な教育内容

建築の「防災・減災」、省エネルギー住宅などの「建築環境」、および「地域における街づくり」について学修します。また、就任する教員は、建築設計の経験が豊富だけでなく、研究や地域連携についても多くの実績があり、これらのテーマについて教育と研究の両方に造詣が深く、地域と連携した活動を行います。

④ 新校舎そのものが教材

平成29年2月完成予定の新校舎は、建築学会賞を受賞している建築家である早稲田大学古谷誠章教授(ナスカー一級建築士事務所)が設計し、建築構造や設備、内装など、いたるところに建築を学ぶ上での教材になる工夫がされています。学生は、その「場」で、教材そのものに触れることができる環境が整っています。

⑤ 建築実験棟

新校舎と合わせて、建築構造実験棟と建築環境実験棟を建設し、充実した実験・実習を行います。本学の建築学科は、静岡ならではの建築学を学ぶ学科として、地域に根ざした活動を充実させていく計画です。

建築学科のカリキュラム(主要科目)

	1年	2年	3年	4年
計画・意匠	図学 デッサン 設計製図	設計製図 建築計画 近代・西洋建築史 CAD	設計製図 建築計画 日本建築史 都市計画 空間論 インテリアデザイン	ランドスケープデザイン セミナー・卒業研究 卒業設計
設備・環境		環境計画 設備計画 実践研究 地球環境エネルギー	環境計画 設備計画 照明デザイン 演習・実験	セミナー・卒業研究
構造	構造力学	構造力学 建築構法 鉄筋コンクリート造 建築材料 材料実験	鉄骨構造 木質構造 構造実験 建築施工 建築生産 耐震設計 静岡の地域と建築	建築生産 建築防災 セミナー・卒業研究
法規			建築法規	
基礎・教養	数学・物理・語学 ・芸術・文学	語学・心理学 社会学・経済学	語学・品質工学	



小林久理眞教授がネオジム磁石を凌駕する磁性化合物を発明

物質生命科学科の小林久理眞教授の研究グループが新しい磁石材を発明し、3月11日(金)、本学にて記者発表会を開催しました。

小林教授らは、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構の委託を受け、ネオジム磁石を凌駕する特性を有した磁性化合物の発明に成功しました。

ハイブリッド車用モーターなどに使用されているネオジム磁石は、高い磁気特性を持っていますが、使用されるレアアース(希土類)の供給問題が大きな課題となっています。また、温度上昇とともに磁力がパワーダウンしてしまうことも課題です。

今回開発した新素材は、これらの課題を解決するものであり、ネオジム磁石に比べ、レアアースの含有量を半減でき、結晶構造を変えたことで、耐熱性もネオジム磁石より優れたものとなっています。

今後は、地域企業と連携し、この素材を磁石として焼結し、実用化を目指していきます。実用化されれば、高温に強いことから、自動車以外にも航空機や宇宙産業での利用も期待しています。



記者発表で発明内容を説明する小林教授

富田寿人教授が代表を務める研究グループが第18回秩父宮記念スポーツ医・科学賞 受賞

3月23日(水)、人間情報デザイン学科の富田寿人教授が班長をつとめる「アクティブ・チャイルド・プログラム普及・啓発プロジェクト」が、スポーツ医科学の分野で業績をあげた研究者らに贈られる第18回秩父宮記念スポーツ医・科学賞の奨励賞を受賞しました。アクティブ・チャイルド・プログラムは子供の発育段階に応じて、楽しみながら必要な動きを習得する運動プログラムです。富田教授は、袋井市はもちろん全国各地で、同プログラムの普及・啓発活動に取り組み、地域の青少年育成に貢献しています。



日本体育協会 張会長から賞を受け取る富田教授(右)

総合情報学部の3名が 第5回サイエンス・インカレのファイナリストに!!

本学総合情報学部の伊神希美さん（当時3年生）が代表を務める研究グループが、平成28年3月に開催された「第5回サイエンス・インカレ」のファイナリストとして、ポスター発表部門に出場しました。本学初の快挙を成し遂げた彼女らに、応募から出場にいたるまでの経緯などについてお話を伺いました。*インタビュー実施日：平成28年3月30日(水)



左から：野口さん、吉田さん、伊神さん

—まず、「サイエンス・インカレ」について教えてください。

伊神 文部科学省が主催する、自然科学系の分野を学ぶ大学学生による、自主研究の成果を発表する場です。第5回は、全国の大学生グループ約250グループが参加しました。

—なぜ応募しようと思ったのですか？

伊神 総合情報学部の先生から、このインカレの情報をいただき、これまでの大学生活では人に「誇れる」何かをやってきたという自負がなかったので、とにかく「やってみたい!」の気持ちだけで、応募を決めました。そこに、野口俊樹さん(当時4年生)と吉田優多朗さん(当時3年生)が参加してくれました。

—伊神さんがきっかけということですが、他の二人は？

野口 当時、僕は卒業研究をしていて、伊神さんが先生に相談している内容を聞いて「何か手伝ってあげられるかも」と思ったことからです。

吉田 僕は伊神さんから研究の話を聞いているうちに、いつの間にか参加していました。(笑)

—インカレに出場された訳ですが、苦労したことはなんですか？

野口 応募書類の締め切り日に応募書類が1つ足りていないこ

とに気付き、突貫工事で資料を仕上げたことです。準備とチェックの大切さを学びました。

—晴れてインカレに出場に至り、どんな体験が印象に残っていますか？

伊神 他の大学で頑張っている、凄い学生を身近で感じられましたね。目の輝き方が違いました。

野口 そう。「井の中の蛙」だと感じましたね。

吉田 僕は、普段接することのできない有名な企業の方と交流できたことです。

—出場してみて、得られたことは何ですか？

伊神 自信を持つことができました。また、これまでは自分で自分の限界を決めていたことに気付き、駄目で元々だと、失敗を恐れずやってみることが大事だと実感しました。

吉田 僕は、チャンスを感じられるようにアンテナを高く張って情報を見つけること、そしてチャンスを掴むかは自分次第であることに気がきました。行動あるのみです。

—野口さんは、この春(平成28年3月)に卒業されましたが、先輩の皆さんにメッセージはありませんか？

野口 このインカレは、有名大学からの参加が多かったですけど、僕らも参加ができた。それは、僕らの「やる気」が評価されたと思っています。確かに、「やる気」だけでは、モノは出来ませんが、「やる気」がないと、モノも発想も生まれません。ですから、自分の限界を学力の物差しだけで計らずに、チャレンジしてほしいと思います。新しいサイエンス・インカレ出場者が生まれることを期待しています。

—ちなみに次回も参加してみたいですか？

吉田 はい。今回は途中参加でしたが、次回は僕が代表で応募する予定です。

—これからの活躍を期待しています。本日はありがとうございました。

お理工塾応援隊が

『春休みたいけん研究室』を開催しました!!



3月24日(木)、本学にてお理工塾『春休みたいけん研究室』を行いました。今回のイベントは、進級する学年の理科の授業を先取りすることを目的とし、小学3～5年生の子供たち約60名とその保護者に参加いただきました。

新4年生は、「ものの温まり方と冷え方」、新5年生は、「電磁石」、新6年生は、「燃えるとは?」をテーマに開催し、いずれの子供たちも、みんな真剣に実験に取り組みました。みんなが楽しそうな笑顔で、「面白かった」と言ってくれたことで、少しでも理科の楽しさが伝わったのではないかと思います。

これからもお理工塾応援隊は、子供たちに理科の面白さや興味を持ってもらえるよう努力していきます!

お理工塾応援隊による
ツイッターはこちら▶



公開シンポジウム

1月30日(土)に、「世界文化遺産への挑戦—明治日本の産業革命遺産—」をテーマに平成27年度公開シンポジウムを開催しました。当日は、104名の方にご参加いただきました。

基調講演では、国立科学博物館 産業技術史資料情報センター長の鈴木一義氏から、「明治日本の産業革命はなぜ可能だったか!?!」についてお話いただき、また、その後のパネルディスカッションでは、(株)木村鋳造所の菅野利猛氏、(公財)江川文庫の橋本敬之氏、静岡県の小坂寿男氏にも参加いただき、葦山反射炉を通じて金属の歴史から世界文化遺産登録への挑戦についてディスカッションを行いました。参加者から「産業革命は、江戸時代からの技術の蓄積の成果であったと理解ができた」との声が多数寄せられました。



記念植樹

3月4日(金)に、卒業生代表が大学近くの愛野公園へ「ヤマボウシ」を記念植樹しました。この植樹は、4年間お世話になった袋井市民へのお礼として卒業生からの募金により一期生から毎年行われており、今回で22本目の植樹になりました。

卒業生たちはヤマボウシの成長を願うとともに、自分たちの未来にも思いを馳せていました。



合同企業セミナー

3月8日(火)、9日(水)の2日間にわたり、本学にて合同企業セミナーを開催しました。両日とも、それぞれ80社が参加し、学生との面談、教員との情報交換などを行いました。

学生たちにとっては様々な企業担当者から直接話を聞けるということで、とても有意義な時間となりました。



第72回・第73回SISTサロン

平成28年3月11日(金)、3月17日(木)の2日間、SISTサロンを開催しました。3月11日(金)の第72回は理工学部機械工学科の益田正教授が、3月17日(木)の第73回は総合情報学部コンピュータシステム学科の菅沼義昇教授がそれぞれ講演を行いました。両教授ともこの3月末で定年を迎えるにあたり、講演は本学の開学当初からの歴史やご自身の教育・研究活動を中心にお話いただきました。また、懇親会では講師を囲んで、仕事の話や最近の科学・技術について話しあいました。



(益田 正教授)



(菅沼義昇教授)

卒業式

3月12日(土)に、平成27年度卒業証書・学位記授与式を挙行し、理工学部、総合情報学部合わせて281名と大学院生15名が卒業しました。

卒業生を代表して総合情報学部人間情報デザイン学科の長沢貴志さんが「大学で得た知識と経験を生かし、創造力と積極性を持って社会と技術の発展に貢献したい」と力強く誓いました。



入学式

4月4日(月)に、平成28年度入学式を挙行し、学部生、大学院生合わせて318名が入学しました。新入生を代表して、理工学部電気電子工学科の竹田凌貴さんが「社会に貢献できる人間になるようにさまざまなことに自発的に、真摯な姿勢で取り組みたい」と宣誓しました。



新入生歓迎会

4月9日(土)に、新入生歓迎会を開催しました。290名の新入生が参加し、学生団体や、サークル団体からの熱のこもったPRを受けました。それぞれが興味のあるブースを回り、学生生活の過ごし方について考える機会となりました。参加した新入生から、「これからの大学生活を有意義にするアドバイスが聞けて良かった」との意見がありました。



公開講座

5月21日(土)に、平成28年度第1回公開講座を開催しました。

「袋井宿開設400年のわが町の偉人に迫る!～地元を知って、より好きになろう～」を共通テーマに、第1部は人間情報デザイン学科の小栗勝也准教授が「用行義塾と足立寛～再発見・明治初めの袋井地域～」と題した講演を行い、第2部は元静岡県教育委員会教育長の遠藤亮平氏が「平成に蘇った活人剣―下関条約にまつわる秘話―」と題した講演を行いました。当日は、102名の方にご参加いただき、参加者から「普段生活する地元を学ぶ良い機会になった」との声が多数寄せられました。





若いパワーと思考力で “おもてなし”を

一般社団法人袋井市スポーツ協会 会長
伊藤 秀隆さん

袋井市スポーツ協会は静岡理科大学と3月22日(火)に、体育振興及びスポーツの普及・振興に関する連携協定を締結いたしました。この協定は、袋井市スポーツ協会と大学が有する機能、知識、施設などを活用し、地域社会の体育振興、スポーツの普及・振興、人材の育成を図ることで、地域社会の健康の維持増進に寄与することを目的としています。袋井市スポーツ協会は、協会が主催する事業、袋井クラウンメロンマラソン・各種スポーツ教室、また、エコパで開催が決まっている2018年の「インターハイ・弓道大会」、「ラグビーワールドカップ2019」などにおいては、若いパワー、思考力を必要としています。袋井市に来る国内外からのお客様に対し、「おもてなし」をする場面も多くなります。学生の方々には、ご自身の持つ能力・知識をここで発揮していただき、袋井市の魅力を国内外に発信していただくお手伝いをお願いしたいと考えております。協会も全力で地域のために頑張りますので、学生の方のご協力・ご支援を宜しくお願いいたします。



袋井での学びに、いいご縁を!

袋井まちそだての会 会長
遠藤 亮平さん

人生は、出会いと選択の連続です。特に、前者においては、誰しもが素晴らしい出会いに恵まれることを望んでいます。が、その出会いが自分にとって素晴らしいものであったか否かは、後になって自分の来し方を振り返った時に分かることが圧倒的であり、今の自分がその最中にいることに気付くことは稀です。しかし、聞く耳をもって謙虚に生きていけば、ちょっとしたヒントやアドバイスによってそれが可能になります。

さて、皆さんは、袋井市にある静岡理科大学に学んでいますが、その袋井の禅寺・可睡齋に日清・日露戦争ゆかりの国家的なモニュメントがあるのをご存知ですか。それらは、日本近代建築学の祖・伊東忠太、近代医学の祖・佐藤進と大いに関わっています。

皆さんが四年間の学生生活を過ごす袋井市、巣立っていく時、袋井を語る人となっていることを切望します。



株式会社フジドリームエアラインズ
訓練審査部 シミュレーター事業室 整備G

高林 秀和さん

(機械工学科第18期卒業生)

シミュレーター訓練は、朝7時から夜23時までの16時間、ほぼ毎日行われており、シミュレーターの稼働がストップしないよう高い機材品質が求められています。そのため、定期点検や予防整備を行うのは勿論のこと、より良い訓練環境で訓練をして貰えるようにソフトウェアの改修を行ったりもします。また、プログラムに不具合が見つければ、シミュレーターメーカーであるCAE社へ問い合わせをしたり、部品に不具合があれば新しい部品の調達を依頼します。更に、実際の飛行機が改善のために改修されると、シミュレーターも併せて改修する必要があるため、CAE社のエンジニアが来日して共に改修作業をするケースもあります。

私は機械工学科、航空工学コースに所属していました。在学中に学んだ航空機の知識だけでなく、幅広い講義で学んだ工学やプログラミングの知識は、シミュレーターの整備士として仕事をする上で大きく活かされるものでありました。私は2016年4月1日付けで異動となり、現在は技術部で実際の飛行機の技術スタッフとして勤務を開始しましたが、新しいフィールドでもシミュレーターで得た知識を活かして、日々の安全運航を支えていければと思っています。

活躍する卒業生

私が勤務する株式会社フジドリームエアラインズ(以下FDA)は、公共交通機関である航空運送事業を営んでいます。私達、航空会社は飛行機を安全に運航するための訓練を日々実施していますが、私は、飛行機の操縦室(コックピット)を模したフライト・シミュレーター(以下シミュレーター)の整備を行っております。

シミュレーターは、これからエアラインパイロットになるための資格を取得したり、毎日飛行しているパイロットが定期的に訓練をするための訓練機材です。パイロットは操縦をする航空機と同型のシミュレーターで訓練を行う必要があるため、FDAではEmbraer 170シリーズのコックピットを模したシミュレーターを保有しています。このシミュレーターは、世界No.1メーカーのカナダCAE社製です。

授業の紹介



図書館の本や、コンビニの支払いなど、世の中の情報システムではさまざまな情報がデータベースに保存されて活用されています。例えば、図書館で本を検索する場合には、データベースを活用することで、タイトルや著者名、キーワードなど、いろいろな方法で目的の本を探すことが可能です。そのためには、データベース



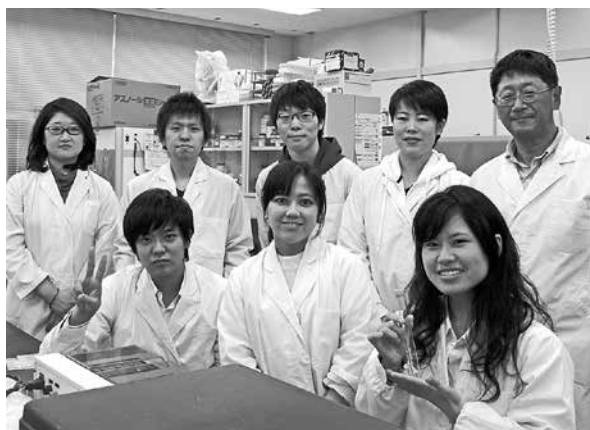
を使用しやすい形になるように設計し、データを保存したり検索したりする機能を作り込んでいくことが必要です。「データベース応用」では3年生の学生を対象に、2年生で学んだ「データベース基礎」の理論を応用して簡単なネットショップのデータベースを設計し、SQLというデータベース操作の命令を使用して必要な機能を製作していきます。このため、教員の他に4年生の学生がアシスタントとして参加し、個別に支援します。実際の情報システムにおける一連の機能を作成し、動かしてみることで、データベースの役割を体験し、理解を深めてもらうことを狙っています。

担当教員：人間情報デザイン学科 教授 工藤 司

物質生命科学科 宮地研究室

おじゃまします。

私たち消費者は小売店で購入した食品に対して安全性やおいしさ、栄養性を要求します。また、食品は毎日摂取するものであるため、入手し易く安価であることが求められます。食品工場の管理部門では毎日、品質上問題のある「ハネ品」と呼ばれる廃棄食品をいかに減らすかの戦いです。本研究室では、食品工場で報告された腐敗等の微生物的な劣化現象の究明を行っています。食中毒菌を含めた原因微生物や腐敗産物等の検出、腐敗産物の生合成に関与する遺伝子・酵素タンパク質の解析は予防策を講じるのに役立ちます。いわば、「食品のお医者さん」的な立場にあります。特に、塩蔵食品等の非加熱食品中の微生物は発酵と腐敗の境界線上に位置するため研究主眼としています。



研究室訪問

第36回

研究室学生からひとこと

横山 将史 (材料科学専攻2年)

本研究室では微生物を扱った研究が行われています。学生は1人1テーマ体制で、私はイチゴドライフルーツや蜂蜜由来の耐糖性 *Bacillus* 属細菌の耐糖機構に関する研究を行っています。毎週実施されるセミナーでは研究報告・質疑応答が行われ、他の学生の研究テーマやお互いの理解が深まります。また、工場見学や学外で開催されるセミナー等に参加する機会が多いのも本研究室の特徴です。

研究室担当教員

宮地 竜郎先生

■プロフィール

岐阜県出身。博士(農学)。東京農業大学および千葉大学大学院で農芸化学を学びました。東京農業大学で教育・研究に携わった後、平成27年4月に本学に赴任しました。食の安全や品質向上に資することを最終目的とし、対外的にはHACCP等の衛生管理手法の指導、研究面では製造・加工を常に意識した食品微生物学・食品保蔵学的な研究を行っています。

入試広報 NEWS

静岡理工科大学の「スゴい」を体感!

夏は進路を考える絶好のシーズン。進路研究を応援する進路イベントが盛り沢山。着々と新しい校舎の建設が進む自然豊かなキャンパスまで足を運んでみませんか?



■夏のオープンキャンパスで静岡理工科大学をCheckしましょう!

思い立ったら即行動!静岡理工科大学で皆さんの興味・関心・好奇心をくすぐる「スゴい」を見つけてみましょう。受験生は進路選択を見据えた情報収集に、下級生は今後の進路研究の一助として、オープンキャンパスに参加してみませんか?未来に役立つアイデアが生まれる研究室の見学や模擬講義体験を中心に、静岡理工科大学の「スゴい」を体感!サポートの在学生から大学生活の情報もゲットしましょう。また、祝日開催の「Weekday大学見学会」では、静岡理工科大学の普通の授業や研究の様子など、学生が生き生きと取り組む姿をご覧いただくことができます。



—今後の日程—

- オープンキャンパス 7/31(日)、8/21(日)、9/11(日) 開催時間10:00-16:00
模擬講義、研究室見学・体験、学科紹介ツアー、学食体験、保護者説明会、入試要項配布、過去問題配布など入試情報や就職情報、新設の建築学科を始め最新の学科情報もご案内。個別相談にも応じます。
 - Weekday大学見学会 7/18(祝・月)、10/10(祝・月)、11/23(祝・水) 開催時間13:00-16:00
授業見学、研究室見学、入試説明会、保護者説明会、個別相談など
- *詳細や参加申し込みは、本学受験生サイト(<http://www.sist.ac.jp/navi/>)からどうぞ!

■「受験生サイト」がさらに使いやすくバージョンアップ!

静岡理工科大の受験を考えている方はもちろん大学進学を考えている皆さんに朗報!本学の「受験生サイト」で静岡理工科大の「スゴい」をいつでもどこでもCheckできる。バージョンアップした「受験生サイト」は、スマートフォン・タブレット対応に。もちろん今までどおりパソコンにも対応しています。

新たに設置する「建築学科」やリニューアルする「情報学部」の最新情報や研究室の挑戦、緑豊かなキャンパスと最新設備の紹介から各学科の特色、入試情報まで。いつでもどこでも、静岡理工科大をあなたの手元でご覧いただけます。

是非本学受験生サイト(<http://www.sist.ac.jp/navi/>)にアクセスしてください。

2017年度生 入試日程 *詳細は本学受験生サイト、入試要項でご確認ください。

入試種別	試験日	合否通知日
指定校推薦入試	11月12日(土)	11月19日(土)
公募制一般推薦入試・公募制自己推薦入試		
専門高校・総合学科特別奨学生入試		
特待生推薦入試	12月17日(土)	12月22日(木)
一般前期(A)入試・(B)入試	1月28日(土)・29日(日)・2月3日(金)	2月10日(金)
一般後期入試	3月3日(金)	3月10日(金)
前期センター試験利用(S)入試・(A)入試・(B)入試	本学独自の個別試験なし	2月10日(金)
中期センター試験利用(A)入試・(B)入試	本学独自の個別試験なし	3月10日(金)
後期センター試験利用(A)入試・(B)入試	本学独自の個別試験なし	3月22日(水)

役職者紹介

●平成28年4月5日現在

大学評議員

学長	野口 博	電気電子工学科長	土肥 稔(教授)
理工学部長	小澤 哲夫(教授)	物質生命科学科長	小林久理眞(教授)
総合情報学部長	秋山 憲治(教授)	コンピュータシステム学科長	金久保正明(教授)
学生部長	富田 寿人(教授)	人間情報デザイン学科長	大梶 弘順(教授)
附属図書館長	小川 敏夫(教授)	理工学研究科運営委員長	笠谷 祐史(教授)
機械工学科長	十朱 寧(教授)	事務局長	下田 修

YES長兼 やらまいか創造工学センター長	高橋 久(教授)
工作センター長	土屋 高志(教授)
先端機器分析センター長	吉田 豊(教授)
情報センター長	工藤 司(教授)
教育開発センター長	感本 広文(教授)
国際交流センター長	十朱 寧(教授)

*YES: やらまいかエディケーションサイト

人事異動

●平成28年4月1日付採用



理工学部
機械工学科
教授
藤原 弘

専門分野 金属材料工学、金属組織学(ナノ結晶、相変態)、粉末冶金

略歴 立命館大学理工学研究科総合理工学専攻博士後期課程修了。同志社大学理工学部機械システム工学科准教授を経て、本学教授に就任。

趣味 子育て



理工学部
物質生命科学科
講師
南齋 勉

専門分野 界面化学、超音波化学、分析化学

略歴 大阪府立大学大学院工学研究科博士課程修了。神奈川大学特別助教(工学部物質生命化学科)を経て、本学講師に就任。

趣味 バスケットボール、スポーツ観戦



理工学部
物質生命科学科
講師
小土橋 陽平

専門分野 高分子化学、機能性高分子、バイオマテリアル

略歴 鹿児島大学大学院理工学研究科博士課程修了。物質・材料研究機構(NIMS) WPI-MANA ICYS研究員を経て、本学講師に就任。

趣味 サッカー、テニス、読書



総合情報学部
コンピュータシステム学科
講師
長尾 雄行

専門分野 数理学(偏微分方程式論、関数解析学)、ソフトウェア科学、e-Learningシステム

略歴 立命館大学大学院数理学研究科修士課程修了。産業技術大学院大学助教を経て、本学講師に就任。

趣味 海外ドラマ鑑賞、ドライブ



総合情報学部
コンピュータシステム学科
講師
高野 敏明

専門分野 人工知能、機械学習(特に強化学習)、ソフトウェアエンジニアリング

略歴 三重大学大学院工学研究科博士後期課程システム工学専攻修了。立命館大学情報理工学部知能情報学科特任助教を経て、本学講師に就任。

趣味 散策、食べること、水泳



総合情報学部
人間情報システム学科
講師
松田 崇

専門分野 グラフィックデザイン、Webデザイン

略歴 武蔵野美術大学短期大学部美術科卒業。武蔵野美術大学非常勤講師を経て、本学講師に就任。

趣味 サッカー、テニス



理工学部建築学科
設置準備室
教授
脇坂 圭一

専門分野 建築計画:空間認知、建築意匠:作品論、作家論、都市計画:キャンパス計画、施設マネジメント

略歴 東北大学大学院都市・建築学専攻博士課程後期修了。名古屋大学施設計画推進室(現 施設・環境計画推進室)准教授を経て、本学教授に就任。

趣味 旅、スケッチ

お疲れ様でした (平成28年3月31日付退職)

機械工学科 教授 **益田 正**※ コンピュータシステム学科 教授 **菅沼 義昇**
 機械工学科 准教授 **吉田 昌史** コンピュータシステム学科 教授 **玉真 昭男**
 物質生命科学科 教授 **住谷 實** コンピュータシステム学科 准教授 **小嶋 卓**
 物質生命科学科 教授 **出口 潔** コンピュータシステム学科 講師 **松田 健**

※平成28年4月~特任教授

同窓会

だより

ホームカミングデーの開催

本年も、本学にてホームカミングデーを開催します。第16回目の開催を迎える今回は、コミュニケーションゲームや豪華商品が当たる大抽選会を企画しています。

前回の開催時から会場内にキッズスペースを設けておりますので、是非、ご家族でのご参加をお待ちしております。

日時: 平成28年10月23日(日) 11:00~12:30 <大学祭2日目>

会場: 本学食堂(体育厚生棟1階) **参加料:** 無料

対象: 本学卒業生及びそのご家族



同窓会ホームページ、facebookページについて

同窓会では、ホームページの他、専用のfacebookページを開設し、同窓会員や同窓会活動の近況など発信しています。ご覧いただき、同窓生間の交流の手段としてもご活用ください。また、是非「いいね!」をよろしくお願いいたします。

(同窓会HPアドレス <http://www.sist.ac.jp/dousoukai/>) (同窓会facebook <https://www.facebook.com/sist.dousoukai>)



後援会

だより

父母懇談会の開催

日時: 平成28年10月22日(土) <大学祭1日目>

会場: 本学300講義室(学生ホール3階)

父母懇談会では、午前に全体会と学科別懇談会、午後個別面談(希望者のみ)を開催します。

なお、詳細なご案内は9月にお送りする成績表に同封させていただきます。

平成28年度優秀賞表彰

5月24日(火)、1年間の学業成績が優秀であり、人物面においても本学学生として模範である学生に贈られる「静岡理科大学優秀賞」の表彰式を行いました。受賞者30名には、学長から表彰状と副賞が授与されました。受賞者は次の通りです。

機械工学科	2年生 小池 和音	3年生 池田 恵里	4年生 望月 晨弘
2年生 鳥井 大介	3年生 鈴木 芳典	4年生 深山 大輝	鈴木 宏
鈴木 祥	佐々木旺李	平口 誠也	人間情報デザイン学科
3年生 森川 征磨	4年生 蒔田 翔	コンピュータシステム学科	2年生 来間 幸汰
WU DONGLIANG	松山 飛翔	2年生 齋藤 由紘	3年生 原崎 彩奈
4年生 秋野 浩一	物質生命科学科	増田 隼人	糸川 枢司
堀江 貴博	2年生 望月 彬光	草谷 翔	4年生 寺尾 美咲
電気電子工学科	加藤 美桜	3年生 堀尾 一樹	和泉澤昂輝
2年生 白井 立樹	3年生 三上 友子	寺田 憲弘	



サークル紹介

大学祭実行委員会 委員長 池田 雅仁 (機械工学科3年)

大学祭実行委員会は、現在約25名が所属し、週に1回全体会議を行い、毎年10月に行われる大学祭の開催に向けて準備をしています。

大学祭実行委員会は、内務局・会場局・広報局・渉外局・企画局の5つの局があり、仕事を分担して活動しています。私たち大学祭実行委員会の人数は決して多いわけではありません。去年はトラブルがいくつも重なり、苦勞する場面もありましたが、他の局と助け合い、足りない部分を補うことで、大学祭を成功へと導きました。大学祭実行委員会は大学祭を実施し、成功させることを最大の目標としていますが、メン

バー同士の親睦を深めるために、バーベキューなどの交流活動も行うことで、先輩と後輩の壁を無くし、メンバー全員で意見を出し合える雰囲気を作り出すように心掛けています。

今年の大学祭は10月22日(土)と23日(日)の2日間に渡り開催します。去年よりも素晴らしい大学祭を開催するため頑張っています。是非、皆さんも当日ご来場ください。メンバー一同お待ちしております。



スポットライト
がんばる理工科大生



映像表現・芸術科学フォーラム2016
KLab賞受賞
市川 翔大
(当時コンピュータシステム学科4年)

私は大学生生活の最後に、芸術科学会が主催する「映像表現・芸術科学フォーラム」に参加をいたしました。

このフォーラムでは、卒業研究で制作した絵画調3DCG映像生成システムについて発表し、企業賞を頂くことができました。

大学入学までは、プログラミングは自ら好んで学びましたが、数学は好きではありませんでした。しかし、大学で数学の必要性を実感し、苦手だったものに対する意識を変え、勉強を重ねた結果、志望をしていたアニメ制作会社(株式会社オー・エル・エム・デジタル)への就職と、このフォーラムで賞の受賞という結果を得ることができました。

就職先企業は敷居が高い印象があり、応募時に躊躇もしましたが、思い切って挑戦した結果、採用を勝ち取ることができました。

これらの経験から、在学生の皆さんには、これからそれぞれの目指す方向へ走り出す中で、是非、自身を過小評価せず、挑戦することを恐れないうください。挑戦し、少しでも努力し続ければ、自分では気づかないうちに力がついているものです。

その力に加えて、夢、希望、そしてチャンスから逃げない少しの勇気を持って、大学生生活とこれからの人生を輝かせてください。 ※平成28年3月執筆

編集後記

いよいよ建築学科棟(仮称)の工事が始まりました。しかし、この建物を一層輝かせるには、教育の充実や、研究活動の推進等、教職員全員で力を高めていくことが不可欠です。10年、20年と時が経つ中で、本学キャンパスが良い風情を持っていただけるよう、本号にある研究教育や、高校生との連携、地域との学習・スポーツの連携等を益々発展させていかなくてはなりません (KM)

静岡理科大学キャンパスニュース

平成28年7月30日発行
企画・編集・発行/静岡理科大学 大学広報委員会
〒437-8555 静岡県袋井市豊沢2200-2
TEL.0538-45-0111 FAX.0538-45-0110
http://www.sist.ac.jp E-mail:c-news@ob.sist.ac.jp

